

第43回 内航海運活性化プロジェクトチーム議事要旨

開催日時：平成24年12月7日（金） 14：30～15：20

場 所：熊本市・三井ガーデンホテル熊本 2階 ガーデンカフェ アメリカ

出席者：藏本委員長、村松、塚本、東谷、宗田、松本 各委員

臨席者：小比加会長、原田副会長

議 題：1. 3地区青年部との意見交換会への対応について
2. その他

定刻、事務局から資料の確認と本日の意見交換会の開催要領等説明の後、藏本委員長が議長となり、3地区青年部との意見交換会への対応について事前打合せを行った。

【藏本委員長挨拶】

青年部の要望に対する検討（回答）が遅れているが、前回開催後、青年部の方から全国組織を創設するという話があり、創設を待ってから検討するつもりであった。未だに形成されていないことから検討が遅れている。又暫定措置事業に関しても国交省案に対する全海運の意見を取り纏めて提出し、業界との合意案が出来た後、国交省と関係当局間で協議が行われている状況で進展が無いことから活性化PTを開催するに至らなかった。

また、組織の在り方については、一部の地方組合のみならず殆どの組合の収支状況は悪化してきており、このままの形で維持していくのが良いのか、暫定措置事業の方向性が或る程度見えた時点で検討しようと考えていたが、事業者数・船腹量とも減少している中で、暫定措置事業とは切り離して検討出来るのではないかと考えている。

【小比加会長挨拶】

合同会議に出席する青年部のメンバーは青年部の意見が通らないと言う組合に対する不平、不満が根底にあると思われるが、各地区で解決して頂くべきものであり、全海運執行部や理事会等の方から指示する問題でも無く、理事各位には理事会等機会ある毎に各地区において青年部の意見に対する理解を深めて頂くよう求めていきたい。

【原田副会長挨拶】

本日は若手の経営者予備群達が一生懸命討論している。内航海運の現況はマイナスの要素が沢山出てきているが、その中で、もがき苦しみながらも如何にして生きていくか、と言うことも大きなテーマであると考えており、知恵を出し合って行きたい。

この後、議題1の前回（24. 2. 17広島開催）青年部会から要望のあった「全海運の常設委員会として青年部会を設置」について、大要以下の通り意見が述べられた。

○本要望に対しては、全国組織創設の問題があったことから結論が出せずにいたのであって、青年部に責任があった、と発言して欲しい。四海連青年部に呼ばれた際、青年部自ら全国組織を創設すると言ったのに創設出来ないのは何故なのか、計画的に行動が出来ていないのでは無いか、青年部はこれから何をしたいのか、全国組織の名簿が出来て、具体的な行動計画等文書で提示してこなければ全海運の理解は得られない旨、発言してきた。こちら側に非は無い。しかしながら常設委員会に拘る必要は無いが、青年部は次の時代を担っていく人達で、自ら考えて発言出来る場をこちら側としても考えてあげないと前に進まない。

○理事会等でのオブザーバーに発言権は無いが、議長が意見を求めることで発言することは可能となる。

○中海連や四海連の青年部の活発な行動に触発され、九海連にも青年部を作ったがかなり手が無く、指

名している状況で仕方なくやっているという感じであるが、自主性を持って活動し、次の世代へ繋げていくためにも活性化PTとの意見交換会を通じたり、全海運青年部という組織の中で成長させてあげたい。

- 皆が皆社長というわけでも無く、実務を担っている人達で自分の仕事がある中で、彼らの年代で業界活動に出てくるというのは大変なこと。我々の世代ではこのような組織が無かった。
- 意見交換会も 3 回目という中で、青年部メンバーが理事会にオブザーバーとは言え参加出来ることになったのは大きな成果だったと思う。出来れば情報を得るだけではなく、発言の場が与えられるよう、会長が発言を求める形で対応したい。
- 地区地区で青年部の作り方も異なる。指名して構成しているところもあれば、全事業者に声をかけメンバーを登録し、自弁で参加しているところもある。不公平感が生じないように声をかけて頂き、自主的に情報を得て発言したいと思う人は登録するという形にして行けば全国的な組織としての構成が進むのではないか。理事の各位に協力を求めたい。後は青年部の活動を見ながら、発言を聞きながら対応していきたい。
- 中海連の場合は常設委員会では無く、別団体の下部組織として青年部会が形成され、部会長・副部会長は中海連理事会に出席出来、発言権・議決権も有する。更に3地区青年部として全海運理事会に議決権は無くてもオブザーバーとして参加出来ることになっているので、現状で良いのではないかと思う。又、中海連の場合、理事に就任すると青年部を卒業しなければならない。
- このような仕組みを四国・中国の青年部にも教えてあげるべきでは無いか。
- 地区組合によっては出席を制限しているところもある。
- 地元のある船主と話をしている中で、今日の会合があることすら知らなかった。個別の会議では理事の考え方、青年部の考え方、中央の考え方と言うものがお互いに分からない。地方で開催する折角の機会であるからオブザーバーとして参加したかった、という話もあった。
- 理事会等への推薦に当たって、地方に於いても何人かの内1人でも若手の参加を呼びかけている。次のリーダーとして育てて貰うためにも大切なことである。芽を摘まないようにして欲しい。
- 地方で出席し易くなるような動きをプロジェクトチームとして方向性を作って貰いたい。
- 全海運を含めて地域に於ける規約に縛られるとバランス等を考えてしまい、出席人数等が限られてしまう。青年部に於いては自由に参加出来るような形に各地区が対応して頂ければより発言出来る場が広がってくる。積極的に手弁当で出席してくる青年部も活動がし易くなるだろう。
- 組合は旅費のことを考えてしまうが、自費で参加する者を拒まないようにして頂きたいと思う。
- 若手は若手同士でネットワークを持っている。理事の方が意外と持っていない。
- 若手と理事の接点が無い。
- ある地域では、船主船長でやっていて困難な部分もある
- 都市部を含め東日本地域では青年部の組織を持っていない。業者数の少ないところも多く組織が作れないと言うのが現状である。
- 組織としては3地区+1で全てを包括せざるを得ない。

- 地区によってはオーナーが殆ど存在せず、理事もオペが就任せざるを得ない。都市部は何れも斯様な状況。
- 折角3地区青年部が全国組織を呼びかけているのだから、理事長・事務局の判断で指名するのでは無く、全事業者に呼びかけて頂きたい。判断するのは個々の事業者。理解と協力を求めたい。
- 一方、地域によっては待っていても出て来ない。リストアップ出来るのであればして頂きたい。
- 青年部の会合を3地区持ち回りで開催するだけでは無く、他地区で開催して当該地区の若手に参加を呼びかけるのも1つの方法ではないか。

以上、種々の意見が交わされ、議長はプロジェクトチームとして以下の通り取り纏めた。

※若い芽を摘むこと無く、出来るだけ青年部の意見を吸い上げ、理事会に反映させられるようにしたい。その為には青年部がしっかり組織を形成し、発言し、行動すると言う姿を見せてくれなければプロジェクトチームとしてサポート出来ない、と言うことを伝えたい。

議題2. その他

議長は、「今後の組合の在り方」に関し、事業者・船腹量が減少している中で現在の儘で維持して行けるのか、何らかの方策を示すにも計画的に方向を示してあげなければ地方組合の対応も困難な状況を迎えてしまう、上から目線で解決出来る問題でも無い、議論のゴール時点をどうするのか、今年度中か次年度へ引き継いで良いのか、等々各位の意見を求めながら本問題については、年度内に方向性を示すのも困難との認識で一致したことから、次年度に於いても本案件を検討して行くことで本日の纏めとしたい旨提案し、了承された。

以上